

平城宮東方官衙地区 SK19189 出土の薄板

—第440次

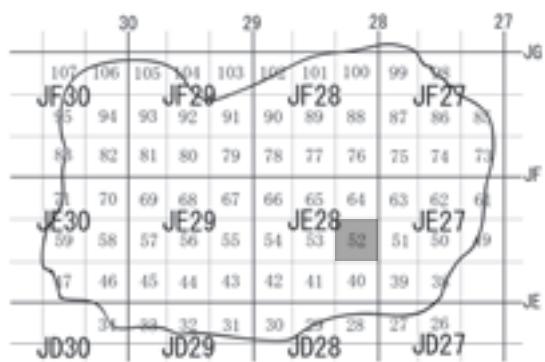
1 はじめに

本報告では、2008年度に行われた平城宮東方官衙地区の発掘調査（平城第440次）で検出された東西約11m南北約7mの土坑（SK19189）からまとめて出土した薄板について報告する。土坑の埋土は現在も土壤水洗中であり、これまでに770年代前半頃に廃棄された衛府にかかる木簡や木製品が多数出土している（『紀要2009』）。今回、新たに洗浄が完了した資料の中に薄板と製作途中の薄板、さらに多量の削片を見いだすことができたため、規格のある薄板の製作およびその製作方法の復元が見込まれた。そこで、これら出土遺物の資料化をおこなった。

2 資料の概要

今回報告する資料は、土坑内の1mメッシュの同一グリッド内から出土しており（図211）、同時に廃棄されたと考えられる一群である。

薄板 図212-1～4は薄板。1は表面に刃物による加工痕跡が残る。両端は切断されており、一端には斜めのケビキ線が数条残る。長88.1cm、最大幅1.9cm、厚0.3cm。板目材。2は表面に刃物による加工痕跡が残る。一端は切断されている。長80.3cm、幅1.2cm、厚0.2cm。板目材。1と2は接合し、長さ約1.68mに復元できる。3は両端折損で、表面に刃物による加工痕跡が残る。板目材。残存長45.4cm、幅1.4cm、厚0.2cm。板目材。4は両端折損で、表面に刃物による加工痕跡が残る。残存長39.1cm、幅1.4cm、厚0.3cm。板目材。



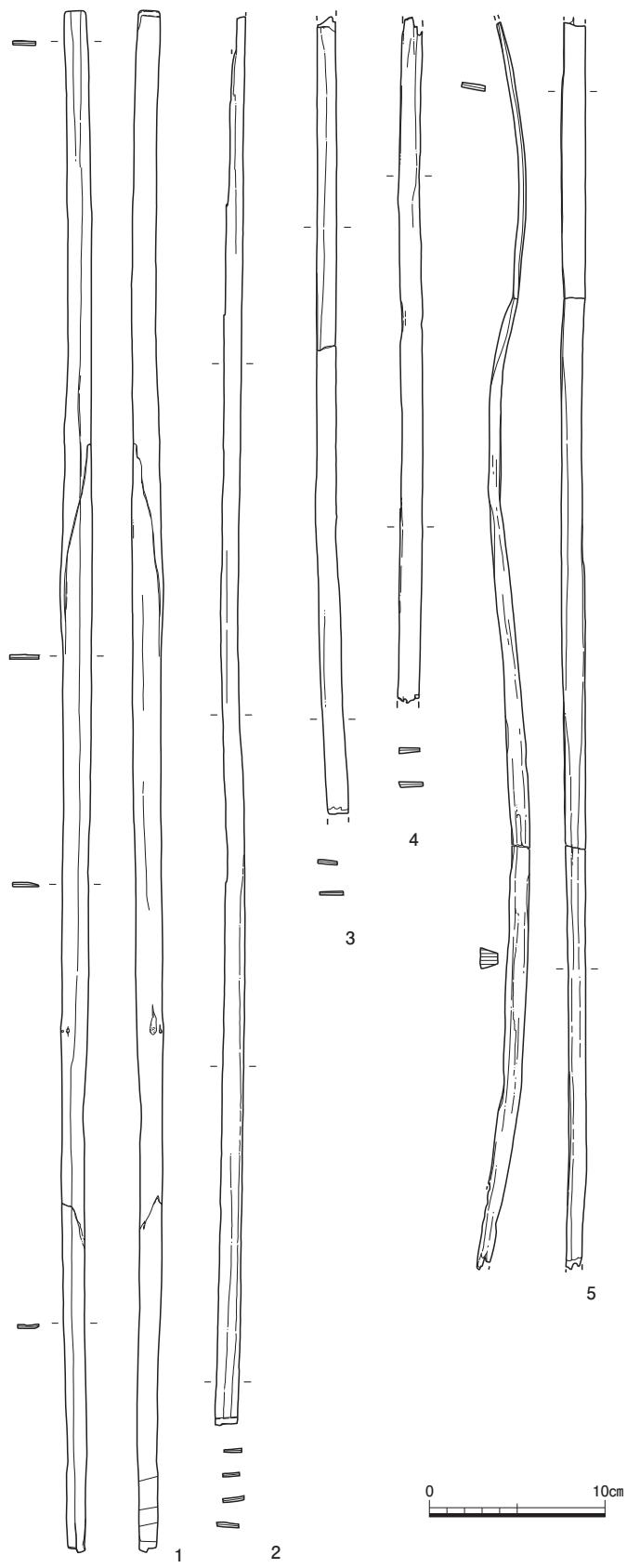


図212 薄板と加工途中の薄板 1:4

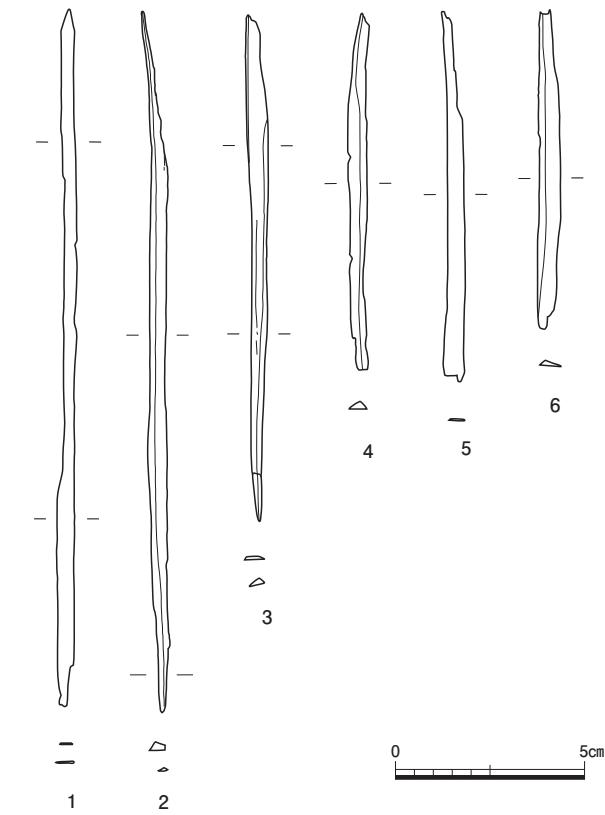


図213 削片 1:2



図214 薄板とともに出土した多量の削片